

「がん支えあいの日」応援イベント in 鹿児島

「第3回かごしま女性医療フォーラム」報告レポート by 山崎多賀子

2009年6月21日の「がん支えあいの日」に先駆け、その応援イベントとして、5月23日土曜日に、「第3回かごしま女性医療フォーラム」が開催され、鹿児島はもちろん他県からも参加希望者を募り、約300名の方々が招待されました。

このイベントは、日本の乳がん症例数ベスト5に入る相良病院の特別協賛のもとで開催されているもので、毎回大盛況ということです。

今回は、「がん支えあいの日」にちなみ、「あなたを支える」をテーマに、第一部は私（山崎多賀子：美容ジャーナリスト）が「気持ちから病気にならないで！」を演題に基調講演をさせていただきました。

私事ですが05年に乳がんが発覚し、右乳房全摘出ののち、抗がん剤の終了後、現在はホルモン療法をおこなっています。今日はその体験談についてお話させていただきました。闘病中でも、元気なときの外出時は病気の前と同じように、キレイにおしゃれを心がけていましたが、そういった心の持ちようや実践法をご紹介します。また、闘病中にどれだけ周りの人の支えが心強かったか、その経験から元気になった今、今度は少しでも誰かの役に立つことができるのであればと、キャンサーリボンスの理事を引き受けたことなどをお話させていただきました。

その後のシンポジウムでは、相良病院内にある「ココロとカラダのサポートセンター」という、治療以外で患者を支えるという取り組みの場から、患者会「いずみ」代表の山王芳子さん、看護部長の浜田美希子さん、ウィッグメーカーのスヴェンソンの内尾啓子さん、日本ヨーガ学会認定ヨーガ療法士の河口律子さんも登壇。相良正子（相良病院常務）の進行のもと、それぞれのお立場から、患者さんのサポートの試みを紹介、また今後の展望などについて、熱く語られました。この「ココロとカラダのサポートセンター」は鹿児島地区のリボンスハウスにもなっています。詳しくは同Web上のリボンスハウスのコーナーで、さらに詳しくご紹介しています。

そして第二部の相良病院乳腺科部長の相良安昭医師による「あなたの悩みに答えます」では、医療の現状や患者さんからの事前の質問にわかりやすく答えてくださいました。

フォーラムはとてもアットホームなもので、参加者の皆さんは始終笑顔で、帰って行かれました。

また、その日は、患者会「いずみ」の毎年恒例の温泉旅行も行われ、私も同行させていただきました。

向かったのは、桜島の南岳のふもとにある、ふるさと観光ホテル。

このお宿は、錦江湾に面した美しい龍神露天風呂がとて有名で、なんとお風呂そのものが神社になっています。入り口には鳥居があり、奥には赤禿の樹を神木と崇め龍神様が祀

られているのです。神様の前で裸になるのは失礼なため、白装束の浴衣を着て入浴します。夜は松明（たいまつ）がたかれ、幻想的。そして朝は目の前に広がる海から開放感が得られ、2つの感動をいただきました。

混浴ですが、乳がん治療で失ったり、変形してしまった乳房を気にすることなく入れるというのは、乳がん患者にとって嬉しいことだと思います。

翌朝は元気に見えるお化粧法のデモンストレーションをさせていただきましたが、皆さん食



白装束の浴衣を着て、いざ露天風呂へ！

病院は病気を治療する場、こう考えるのが普通ですが、相良病院では、治療以外の時間に、気軽に立ち寄れる、「ココロとカラダのサポートセンター」という場所を何年も前から設けており、立派に機能しています。これこそまさにリボンスハウスの目指すところといえるでしょう。

い入るようにモデルになってくださった女性がより美しくなっていく様子に見入っておられました。やはり女性は、病気になっても、いくつになってもキレイでいたいと思い、それを実践することが明るく生きるパワーになるのだと実感したのでした。



翌朝おこなわれたメイクアップセミナーも盛況でした